

平成23年度 第4回 藤島地域審議会次第

日時:平成23年9月27日(火)09:30~
会場:藤島庁舎2階202・203会議室

1 開 会

2 会長挨拶

3 協 議

(1) 藤島地域審議会協議テーマ

これまでの総括について

市民の健康づくりについて

地域コミュニティ（住民自治組織）のあり方について

地域の活力を高める方策について

4 その他

(1) 行政改革における地域庁舎の見直しについて

5 閉 会

協議テーマ「市民の健康づくりについて」に関する意見集約

近年、グランドゴルフやウォーキングを楽しんでいる人が増えている。しかし冬場の取組みはどうなっているか、様々な職種・年齢の方から健康づくりについて意見を聞いてみてはどうか。

(1) 健康づくり全般について

健康づくりは、栄養・休養・運動が3要素。

自分の健康管理が自分に対する一番のプレゼント。

自分が、自分の健康を守ることが基本。自己責任がある。

健康も、まず自ら健康を守るのが基本。どういう形で健康づくりをするか、これは食・医療・健康診断など、非常に多岐にわたる。

(2) 運動について(冬場の運動、スポーツクラブの運営、家でできる運動等含む)**スポーツクラブについて**

スポーツクラブの課題は、補助金が切れた場合にどうするか?というのが課題。

体育館のスポーツクラブの新規参加者を獲得するため、もっと丁寧な情報を出して募集してはどうか。また会費をもっと安くするば、会員が増えるのでは?

体協の補助金について、もう一度、見直しをしていただくことをお願いしたい。

ウォーキングについて

健康づくりは早朝のウォーキングから。藤島地域から早寝早起き、朝起き運動を始めてはどうか。

運動はきちとした正しい姿勢で歩くことが基本。ウォーキングの学習会等を行ってはどうか。

体育館のウォーキングコースを利用して、正しい歩き方ができる指導者を置いて指導したらどうか。その宣伝も必要。

歩くことは健康の基本。歩き方の講師を呼んで、研修をしてはどうか。

冬場の運動について

高齢者は冬場はどうしても出れない。スクールバスの活用とかで、冬場にも外に出やすい環境を作ってはどうか。

冬期間もウォーキングできるような歩道の除雪をお願いしたい。高齢者向けのウォーキングコースを作ってはどうか。

冬場のウォーキングは、公民館の体育館で歩いているようだ。高齢者は冬場は危険なので、外での運動は大変。あまり無理をしないこと。

冬季間、小真木原体育館へバスの送迎はできないか。

冬場の健康管理は難しい。スキー教室や雪おろしツアー等、雪に親しむ様な施策をしてはどうか。

高齢者は、冬場、外での運動は、転ぶなど、怪我をして危険

家でできる運動について

健康のための時間を作るのが難しい。体育館等に行かなくても、家で出来るような簡単な運動ができればいい

楽しみながら、グループをつくって自分たちでできることを、やればいいのではないか

冬場は、家で軽くストレッチをやる方法とか、さまざまな方法がある

(3) 食(地産地消)について

「健康づくり」には、「食」も重要。「身土不二」という言葉がある。地産地消が健康につながる

JA女性部は、地産地消を進めるために、料理教室をしたり、女性部祭り、健康に関する講演等を行っている。JA女性部等、組織に入ってもらうことも大事

「地産地消」という食のあり方。これも楽々や農協で勉強会を行っている。行政も農協も一体となりながら進めて欲しい

(4) 保険・医療について

健康診断を受けることが重要。市の保健婦の指導はありがたい。今の行政の市民に対する健康指導は素晴らしい。

健康のためには、健康診断を受けて、自分の体を知ることから。

(5) 心の健康について

心の健康も重要。朝の散歩は、心と体の最高の健康の源、健康づくりの出発点になる。

健康というのは、心が最初にありき。心が豊かであれば、健康にも有効になる。

(6) 広報・情報発信について

藤島地域でどのような健康づくりや運動が行われているか、参加可能なのかという情報を出してはどうか。情報があれば、スポーツクラブへも参加する人は、まだまだいると思う。

町報に、運動のことが載っている。また地区にも、出前運動などが巡回してくる事業もある。そういう情報に耳を傾けることが必要。

市の広報は見られていない。別の連絡方法も考えないと駄目。

現状認識が重要。この地域で健康づくりの実態がどうなっているのか、すぐ見えるような形でまとめたマップが必要なのではないか。

情報の提供、今の広報等は、魅力がない。健康づくりのための情報に少し金をかける。みんなが親しんで見られるような情報提供・紙面づくりをする。

広報についても、きちんと書く必要がある。それを読むか読まないか、広報にどこまでお金をかけるのか、こうしたことも自己責任。要望ばかりではだめ。

広報を見ている住民は何割いるのか。いくら情報発信しても「それはやりたい人がやればいいのか？」と言う人もいようし強制はできない。今まで通り発信するものは発信する必要がある。

(7) 行政の関与・施策の方向性について

健康づくりは今まで行政主導型で来たため、お金が掛かると参加率が悪い。「お金を出して、自分で健康を守る」という所までには、行っていないのが実態。

行政としては運動のためのきっかけをどう作るか、それを継続していくための環境をどうするか。

体育館には、健康のための設備が整備され、無料で利用できるような設備になっている。民業圧迫にならないように注意する必要がある。

今後の施策の方向性について

藤島地域として、住民の皆さんがどんな健康づくりをしているのか、栄養と休養と運動の3つの視点から、実態はどうか調査をしてみてもどうか。

高齢者は、冬場はどうしても出れない。予算の都合で難しいかと思うが、スクールバスの活用とかで、冬場にも外に出やすい環境を作ってはどうか。 再掲

冬期間もウォーキングできるような歩道の除雪をお願いしたい。高齢者向けのウォーキングコースを作ってはどうか？ 再掲

冬季間、小真木原体育館へバスの送迎はできないか 再掲

冬場の健康管理は難しい。スキー教室や、雪おろしツアーとか、雪に親しむ様な施策をしてはどうか。 再掲

運動はきちとした正しい姿勢で歩くことが基本。ウォーキングの学習会等を行ってはどうか 再掲
体育館のウォーキングコースを利用して、正しい歩き方ができる指導者を置いて指導したらどうか。

その宣伝も必要 再掲

歩くことは健康の基本。歩き方の講師を呼んで、研修をしてはどうか 再掲

協議テーマ「地域コミュニティ(住民自治組織)のあり方について」に関する意見集約

現在の藤島地域における住民自治組織の体制は、町内会の組織及び地区公民館の運営についても、旧藤島町の体制をそのまま踏襲している。鶴岡市全体としてゼロベースで住民自治組織のあり方はどうあるべきかをまとめる必要がある。

(1) 町内会(住民自治組織)について

町内会補助金について

町内会へ対する鶴岡からの補助金が、どんどん削られている。補助金のシーリングをやめてもらいたい。

町内会への補助金、鶴岡と温海は市からの助成が町内会の組織に出しているが、藤島では町内会長に出している。この違いが大きい。

市の町内会への補助金の支給方法は、各町内会の実態を把握しないと町内会費の問題が大きくなっていく。きめ細かく検討してもらいたい。

町内会長として大変なのは、もの凄く気を使うこと。町内会組織は、人間社会で家族単位の次の単位なので、細心の注意をもって当たらないと村ぼっこしになる。

三和では、いくらお金がかかっても、全て切り捨てはやってこなかった。それが円満な集落を築いてきた秘訣。

(2) 公民館について

公民館の運営手法の見直しへの不安

行財政改革の基本計画で、公民館がみんなコミュニティセンターに変えようという感じがする。藤島は公民館活動に関しては先進地。なぜその良さを活かさないのか不満。

公民館の運営管理を指定管理者にするという形は、場所貸しに見える。地域の問題を話合うような、たまり場になっているのが今の公民館の良さ。その良さを無くしてしまうような感じがしてならない。

逆に今の公民館への不満

農協の東栄支所がなくなってから、東栄公民館は何事にも排除という感じ。農協の女性部は、営利目的の会とされ有料となる。営利目的という言葉が腑に落ちない。以前はこういうことは無かった。

協議テーマ「地域の活力を高める方策について」に関する意見集約

少子高齢化や経済情勢などにより、地域の活力の減退が懸念されるが、生活基盤の面では、住民自ら活力を高めていく努力が肝要であり、その方策を各分野において探る。

(1) 商店街の活性化について

藤島ふれあいセンターの賑わいについて

季節限定の朝市・夕市をもっと頻繁に、もっと身近に行ってはどうか？

つや姫について

つや姫御膳・弁当、試食会の開催など、もっとPRしないと消えてしまうのではないか？ つや姫のワラ工芸品も販売してはどうか？

産直「楽々」の活性化について

料理講習会を単発でなく、連続で行ったりグループ化したりして広げることはいか。 「上鉢うどん」を再現して目玉にしては。

ふれあいセンターの納入商店から、一つづつ目玉を出してもらうことにした。また店長を置くことにした。うどんの店、朝市、夕弁の宅配、料理教室等も行う予定だ。

楽々は出入りが難しい。

楽々を処分して、ふれあいセンターに一本化してもらいたい。どちらも市の補助金が投入され中途半端な施設になっている。

ふれあいセンターと楽々では施設の性格がちがう。ふれあいセンターは、藤島地域の人たちのための施設で、楽々は、藤島地域を売り出す施設だと思う。

「楽々」は生産者が基盤にあるので話合いをしないと進められないのでは？

「楽々」の側溝を塞いで入りやすくしてはどうか？

ふれあいセンターと「楽々」が一つになるのが理想。

ふれあいセンターと楽々のそれぞれの組合員が十分に話し合うべき。

ふれあいセンターは、町の中心部でこれから振興を図っていかねばならない場所にある。

潰すのは簡単。楽々に可能性あるのならもう少し活性化の方向を探るべき。

楽々は自分たちの責任で、リスクを負わないかぎり経営がうまくいくはずはない。ちょっとした創意工夫で相当できるはず。組合員の意識を変える必要がある。

藤島の中心を作るべき。ふれあいセンターで何でも揃うようにして欲しい。

話合いをしながらやっていかないとダメ。検討が必要。

売り上げが減っている原因を分析して、今後の対策を。

行政と商工業協同組合、商工会が話し合い進めていくべきではないか。

(2) フジで豊かなまちづくり

日本一のフジの里づくりをめざす。

3つの方向性 住民からフジに関心を持ってもらい、行動を起こしてもらう
フジの花・ツル・木・フジ棚・盆栽を生かす方法を考える
マスコミを上手く利用してPRする

今後の課題 フジの花・実・葉の成分検査をして、どう生かせるかを考える。
フジそのものの品種改良
フジを生かした起業化をしてお金儲けをする

小さいフジが点在するのではなく、大きなフジの名所を作るべき。

同意見。1か所でも目に付く素晴らしいフジを作るべき。

同意見。点在させないで全体的な所をつくる。

これまでも日本一ふじの里づくり推進委員会で、様々な取り組みをしてきた。高さや広さをアピールしても良いのでは？住民意識の盛り上げが大事。

ふじの里推進委員会が中心となって進めてはどうか。

(3) 情報・広報の充実について

地域力は、住民のネットワークや人と人のつながりのこと。地域力を高めるために、広報等で、地域の人たちが自ら情報を発信することで、地域の一体感、連帯感を作り、地域の結束がすすむ。

広報は、住民だけでは、編集能力やレイアウトが難しいので、公民館で住民側の発言や想いを一度まとめて、公民館を経由して発信することが大事。これが藤島らしい公民館の生かし方

公民館へ掲示板の設置をして、お互いの情報交換をしてはどうか

フェイスブックやツイッターの活用をしてはどうか

世代によって繋がる媒体が違う。ソーシャルネットワークで若い人を取り込んではどうか
遊休施設を使って、情報センターを作ってはどうか。

(4) 公民館が地域づくりの中心

地域の活力は、地区の公民館活動が大事。公民館で、住民がコミュニケーションをとれるような活動が必要。これをさらに充実させる。

上藤島の公園は、行政だけでなく、住民を巻き込んだ公園づくりをした。維持管理も町内会で取り組んでいる。コミュニティが活発化した。

町内会で文化祭を行うと、どんな人がいるか判るようになり活性化した。

公民館の見直しの方向をチェックする必要がある。

市民の健康づくり
健康づくりの視点

丸山 鎮 記

体の栄養	食事・水	心の栄養	自己実践・仲間と一緒に楽しく
体の休養	昔から骨休めと言います。	心の休養	リラックスする。
体の運動	スポーツ・歩く・労働	頭の運動	五感機能の体操(見る・聞く・話す・触る・味わう)

体＝體 からだは骨を豊かにすると書きます。
健康は体(體)と心のバランスが取れている状態を指していると考えます。

健康のバランスが保たれているか、どうかの検診・・・体調を崩してから、医者にかかるのが普通。
.....行政側からの定期健康診断・人間ドック・予防接種・健康教室など

私は「死ぬまで元気でいたい。人様に迷惑をかけないように生きたい。」そんな夢と希望を持っています。
そのためには、どうするか。何を目標に、どう計画を立て、行動を起こし、日々実践するか。そこで反省が生まれ、改善進歩につながり、さらに楽しく夢が膨らむと考えます。

これは、多くの人が思い、考えていることだと思います。

健康管理は個人の責任ではありますが、家族の幸せ、地域の幸せ、町の国の安定につながる大事な要件になっている。

健康づくりの地域課題と住民ニーズとして挙げられているのは

少子高齢化対策	子供の体力低下	肥満・メタボ対策	老人世帯・一人暮らし対策
健康保険制度の安定			
成人病対策	減塩運動	定期健康診断の徹底	
一人一スポーツの実践		一日10,000歩の実践	
禁煙運動			
行政主導の体育振興から「自分の健康は自分で守る」個人責任・民間主体の体育振興への転換			
食の安全	地産地消		
肩、肘、膝、足、股関節の痛み・ゆがみ.....スポーツや健康を意識する動機			

健康づくりは市行政の横断的テーマです。過去に調査したデータがあれば、それを利用し、不足するものは調査して現状実態を把握整理すれば、問題・課題がはっきり見えてきます。

その上で、個人が実践すること、行政が施策として取り組む内容を審議会で検討してはいかがでしょうか。

個人で実践するには強い意志がないと継続出来ないし、その効果も上がりません。
一人では長続きしないが、スポーツクラブなどの仲間集団に入って活動すると楽しく継続するようです。(集団力)
このためには、行政からの積極的な指導、的確な情報提供、継続した広報活動が必要です。

行政改革における地域庁舎の見直しについて

鶴岡市行財政改革大綱（抜粋）

①組織・機構の見直し

○ 着実な政策推進に向けた組織づくり

コミュニティの維持・再生、安全・安心・快適な市民生活の実現、少子高齢化への適切な対応、全市的な道路・施設などのインフラ整備・景観形成、少子化に対応したより良い教育環境の構築、地域文化の振興、効率的な業務執行体制の構築及び地域庁舎の活性化、効率化に向けた関係部課の再編統合や事務移管等を積極的に進める。また、予算・人材・施設・情報等の経営資源を効果的に活用するための見直しに努める。

○ 市民の利便性向上の視点に立った組織の見直し

子育て、高齢者の支援に関する健康、医療、介護、福祉等の事業を一元化し、市民の利便性を向上する。また、地域庁舎を有するメリットを活かした効率的で利便性のある市民サービスを提供するとともに、市民・地域のニーズを的確に捉えることができる体制を構築する。

○ 本所・庁舎間、部局間の機能分担の見直し

効果的で効率的な行政運営の観点から、本所の部課及び本所と地域庁舎との役割・機能の見直しや相互の連携強化を進めるとともに、地域の実情、業務内容と見合う合理的な組織に再編する。

鶴岡市行財政改革大綱に基づく実施計画（抜粋）

①組織・機構の見直し

- (1) 地域活性化に向けた体制の整備
- (2) 住民の安全・安心、かつ、心豊かな暮らしに向けた体制の整備
- (3) 産業振興に向けた体制の整備
- (4) 経常的事務事業の集約又はブロック化

<当面の主な見直し事項>

○総務課

- ・消防団事務を消防本部に移管（危機管理は継続）し、消防組織を一体化
- ・教育課から業務の一部を移管するとともに、コミュニティ担当を一元化
- ・地域活性化推進のための重点配置

○市民福祉課

- ・税務部門を総務部に集約のうえブロック化（出先機関）により庁舎に配置
- ・保健師を段階的に健康福祉部に集約のうえ、地域担当制として庁舎に駐在配置

○産業課

- ・観光、地域資源などそれぞれの特性に配慮した重点配置
- ・課内班の再編による連携強化

○建設環境課

- ・建設部門を建設部に集約のうえ、ブロック化（出先機関）により庁舎に配置
- ・環境事務を市民福祉課に移管

○教育課

- ・業務の一部（地域づくり・コミュニティ関係事業等）を総務課に移管
- ・社会教育関係事務を教育委員会に集約のうえ、関係施設に配置